

バリアフリーとユニバーサルデザインについて

◇バリアフリー 化社会を目指して

バリアフリー(Barrier free)とはアクセシビリティ(accessibility)とも呼ばれ、人が社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを取り除くことや取り除いた状態、またはその設計手法における考え方を言います。

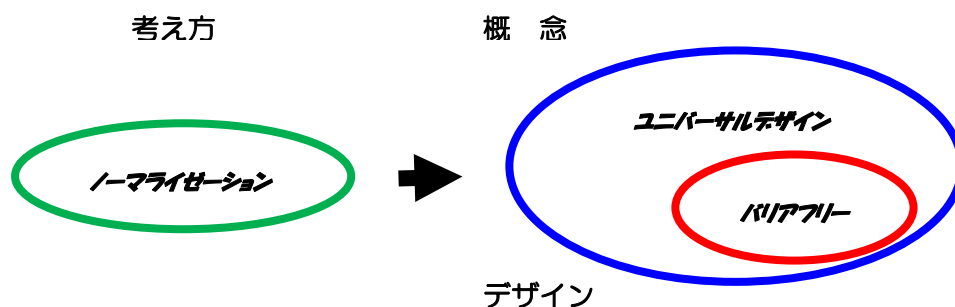
バリアフリーについては、まだまだ未整備なところが多く、多くの方が不満を持っています。それを解決するため、障害者や高齢者や小さなお子様連れの方々だれもが移動や利用が円滑にできるよう、また誰もが生活しやすい社会の実現を目指しています。



音無橋脇昇降施設(エレベーター) アスカパークレールのアスカルゴ

◇ユニバーサルデザインとノーマライゼーション

北区は、バリアフリー社会の実現に向けて、積極的に取り組み(ユニバーサルデザイン: Universal Design)、誰もがより生活しやすい社会(ノーマライゼーション: normalization)を目指しています。



・ノーマライゼーション

ノーマライゼーション(normalization)とは、N・E・バンク・ミケルセン(N.E.Bank-Mikkelsen,1919～1991、デンマーク)が1950年代に、多種多様な人たちが「共に生きる社会」の実現のために提唱した考え方で、特定の人に特殊な対応をするのではなく、誰もが普通に暮らして行けるような社会環境を作っていこうというものです。このことは、社会基盤整備に直接かかわるまちづくりにおいてもとても重要なことです。そして誰もが利用しやすい物や環境を生み出す手法として提唱されたのが、ユニバーサル・デザイン(Universal Design)です。

・ユニバーサル・デザイン

ノーマライゼーション社会を実現するには、誰もが同じように利用しやすい物や環境を作っていくことが必要です。ロナルド・メイス(Ronald L. Mace,1941-1998、アメリカ)は「できるだけ多くの人が利用可能であるように製品、建物、空間をデザインすること」とユニバーサル・デザインを定義しました。また、ユニバーサル・デザインを行うにあたって、以下のような7つの原則があります。

1. 公平な利用ができること:equitable use.
2. 柔軟に利用できること:flexibility use.
3. 簡単で直感的に利用できること:simple and intuitive use.
4. 情報がわかりやすいこと:perceptible information.
5. 誤操作に寛容であること:tolerance for error.
6. 労力が少なくすむこと:low physical effort.
7. 利用に対して適切な大きさと空間であること:size and space for approach and use.

バリアフリーは、物や環境について障壁(バリア)となるものを取り除くという考え方ですが、ユニバーサル・デザインは誰もがより使いやすいものや環境を生み出していくという考え方であり、バリアフリーは、ユニバーサル・デザインの概念に包括されるものと考えられます。



写真は、上記のような考え方のもと歩車道の段差解消(北区赤羽京浜通り)や横断歩道橋への昇降機設置(北区滝野川馬場歩道橋)といった取り組み例です。